

千年の森便り No.269

2021.6.28

ちば千年の森をつくる会

<http://sfuku.cloudfree.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

6月21日（日）天候 雨のち晴れ

梅雨真っ盛りの6月、天気予報では傘マークが付いていて雨を覚悟の活動日となりました。1時間ごとの天気では10時ごろから雨が上がりそうな予報でしたが、残念ながら雨の中での活動開始となりました。今回は、ニホンジカ生息状況調査と、7月の夏のきのこ観察会に備えて駐車場と進入路周辺の草刈りを行いました。最近、あまりヤマビル被害の話を聞くことがありませんでした、今回はなんと5人中3人が被害に遭うというヤマビル祭りの活動日となりました。写真は、ヤマビルがいない橋の上で昼食とり休憩している様子です。橋の上は、涼しい風が吹き抜けてとても快適でした。



橋の上で昼食休憩

参加者は、伊藤、鶴沢、片野、坂本、福島の会員5名でした。坂本さんからは新じゃがとリーフレタスの差し入れをいただきました。ごちそうさまでした！

次回、7月20日（月祝）は夏のきのこ観察会です。参加予定の会員の方はお知らせください。（福島）

〇ニホンジカ生息状況調査

豊英島では、ニホンジカの生息状況を把握するために3か月に1回この調査を実施しています。調査方法は、島内を手分けして踏査し、発見したニホンジカを記録するというものです。通常は7つのコースに別れて島内を踏査していますが、今回は参加者が5人でしたので、2、4、5、6、7の5コースで踏査を行いました。天候は雨、調査時間は10:10から10:45、調査の結果、今回もニホンジカ、キョンなどの確認はありませんでした。



4コースを踏査中の片野さん

最近のセンサーカメラの映像を見ると、ニホンジカはほとんど記録されていませんが、キョンは毎日のように記録されています。調査の中でキョンの目撃はあっても良さそうですが、記録がないところを見ると、キョンはうまく調査員をかわして隠れているのかもしれない。（福島）

〇きのこ観察会に向けて！ 雨ニモマケズ「豊英島」の進入路を整備

梅雨らしい恵みの雨が降り続く中、メンバー5名で鹿調査と「豊英島（とよふさじま）」への進入路の整備を行いました。今年は雨をたっぷり吸って草木が元気よく伸びており、今回はカマや刈払機に加え、福島さんお手製の「高枝切り用ノコギリ（切り落とす枝の先端にノコギリをくくりつけた特製品）」が活躍！垂れてきた木の枝を払い、普段は車でしか通らない進入路を丁寧に刈り進めました。ピフォアプターで見違えるほどきれいになり、来月開催予定の「きのこ観察会」に向けた準備もしっかりと整いました。



進入路草刈り前



進入路草刈り後

雨模様の草むらでの作業ということもあり、終了時には「ヤマビルにちょっぴりお裾分け（吸血）されてしまう」という、自然豊かな場所ならではのハプニングも！しかしそこは息の合ったメンバー一同。伊藤さんが素早く見つけて取り除き、福島さんの救急キットの絆創膏で、見事な連携プレーの応急処置が完了しました。

整備の後は、雨の豊英島をじっくりと観察。見たこともない珍しいきのこや、雨に濡れて鮮やかに輝くコケ、湖面に浮かぶモミジ、水辺を泳ぐたくさんの小さな魚たちに出会うことができ、雨の日ならではの美しい自然を堪能しました。

また、坂本さんからいただいた新鮮なジャガイモは、その日の夕食のシチューとして美味しくいただきました。いつも温かいお心遣いを本当にありがとうございます。

来月にはどんなきのこが出てくるのか？きのこ観察会が今からとても楽しみです。皆様のご参加をお待ちしております！（片野）



手製高枝切り鋸



雨に濡れて輝くコケ



スギの球果



湖面に枝を垂れるモミジ

○橋上の五つ星レストラン

駐車場と電気柵周辺通路の草刈りを終えて、いつもの昼食場所の千年広場へ戻ろうとして吊り橋を渡り始めると心地良い風が吹き抜けていました。蒸し暑い中、雨合羽を着ての作業で汗ばんだ体には天の恵みに思えたので、ここでお昼を食べたいと提案したところ、即座に皆さんの賛同が得られました。

草刈り中にヤマビルにやられました。ここならその心配も無く、安心して食べられます。涼風を受け、雨上がりの緑を眺め、ホトトギスが鳴き渡る声を聞きながらのお弁当は五つ星レストランにも勝るものでした。創立メンバーによればここで昼食をとるのは会の発足以来、初めての事だそうです。（坂本）



○月日星の三光鳥

千年広場で休憩中に福島さんから「今、サンコウチョウが鳴かなかった？」と聞かれました。その時は気が付いていなかったのですが、耳を澄ませていると今度は遠くで鳴く声が微かに聞こえました。島の外からの声なのか島内にいるのか判然としない距離感でした。

次の声はかなり近付き「月、日、星、ホイホイホイ」とはっきり聞こえました。この鳴き声から三つの光の鳥と呼ばれる訳です。その次は至近距離からでしたので辺りを見回しましたが、姿は見られませんでした。枝伝いに西から東の方向に移動して行ったようで、声は次第に遠ざかり聞こえなくなりました。サンコウチョウは久しく見ていないので声が聞こえただけでも満足です。



サンコウチョウ（上がメス、下がオス）

参考写真は市原のクオードの森で撮影したもので、フジ蔓の中間にワイングラス（巣）が出来つつある場面です。目の周りがブルーで尾の長いのが雄、地味な方が雌です。

○首の後ろに2か所・・・

朝、千葉を出発すると時には見えていた青空も市原あたりから小雨が降りだし、豊英島につく頃には回復することを期待しながらも私のわがままは聞いてもらえませんでした。何時もの集合場所に集まったのは5人、気を取り直して豊英島へ。鹿調査では体調のことを自覚してホテイ岬コースへ。最近目撃情報もあまりなく、残念ながら今回も空振りに終わりました。



シカの調査をしながらきのこを記録

その後、来月のきのこ観察会の準備としてつり橋までの草刈りを行いました。やはり機械は早いですね。鎌で行っていた作業を途中で切り上げ、刈払機で刈ったあとの片づけに集中しました。その時は、この作業が後になってとんでもないことになろうとは思っていませんでした。

昼の休憩後、一人がヒルの被害に気付き私も確認したところ合羽のズボンに発見！よく調べたら首の後ろ2か所で血を吸われていました。落ちたヒルは、たっぷり血を吸っていたのか大きさは今まで見たことのない大きさになっていました。（鶴沢）

○木の上の坂本さん

進入路の草刈りと同時に路上に垂れ下がる枝落としをしました。思ったより上から枝が垂れ下がっていて、即席の長い柄を括り付けたノコギリで苦闘しても思うようにいきません。すると坂本さんが枝に登って切り落とし始めました。こちらが思っていたより高くまで登り、鮮やかなお手並みでした。若い時の鍛え方が違うのでしょうか。（伊藤）



木の上の坂本さん



バス釣りの若者2人

○バス釣りの若い人と

シカ調査でホテイ岬の先端までおりにいくと、岸のすぐ脇で熱心に釣竿を振るバス釣りの若者2人組と目が合いました。何をしているのか、どうやったら島に入れるのかと質問されたので手短かに答え、こちらからも釣果を聞いたところ、それなりに釣れているとのことでした。豊英湖ならではの出会いでした。（伊藤）

○6月の豊英島



イヌセンボンタケ



ウチワタケ？



ホウライタケの仲間



ウスヒラタケ？



フウセンタケの仲間？



ヒイロタケ



ホウキタケの仲間



ニガイグチの仲間



ナラ枯れによる枯死木



枯死木に発生したきのこ



倒伏したナラ枯れ枯死木



クロモジの実



テイカズラの花



コクラン



特大ヤマビル



尾根から湖面を望む

お知らせ

○次回の定例活動は **7月20日（月祝）** です。

公開行事として夏のきのこ観察会を行います。ご参加をよろしくお願いいたします。

参加人数の把握のため、参加予定の方は福島までお知らせください。

集合は、清和県民の森管理事務所下の駐車場に9：30です。 通常と異なりますのでご注意ください。

ご参加の際は、ヤマビル、ダニ対策、安全のためヘルメットの着用をお願いします。

夏のきのこ観察会は、ちば環境再生基金の支援を受けています